

乙 第 号

荒木 正史 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	今村 知明
論文審査担当者	委員	病院教授	城戸 顕
	委員(指導教員)	講師	重松 英樹

主論文

The critical cutoff point of the Zurich Claudication Questionnaire and the Japanese Orthopaedic Association score indicating locomotive syndrome in patients with lumbar spinal canal stenosis

腰部脊柱管狭窄症において、Zurich Claudication Questionnaire と Japanese Orthopaedic Association score に、ロコモティブシンドロームを示すカットオフ値が存在する

Masafumi Araki、Hiroshi Nonoshita、Shuji Kitano、Hideki Shigematsu、

Masato Tanaka、Sachiko Kawasaki、Yuma Suga、Yusuke Yamamoto、Yasuhito Tanaka

Journal of Orthopaedic Science 2020 Apr 3 [<https://doi.org/10.1016/j.jos.2020.02.019>]

論文審査の要旨

本研究は高齢者の一般的整形外科疾患である腰部脊柱管狭窄症（以下 LSS）について、手術のタイミングを検討する目的で実施された研究である。日本整形外科学会より提唱されたロコモティブシンドローム（ロコモ）の評価を LSS 患者にあてはめ、ロコモの視点から治療のタイミングを検討している。その視点からの検討はこれまでになかったものであり、多くの脊椎外科医にとって役立つ結果であったと評価できる。

公聴会においては、すでに疾患特異的評価が確立された疾患においてあえて（非疾患特異的な）ロコモ（度）をカットオフ値とする臨床的意義、カットオフ値の設定の方法に改善の余地があるのではないかなどの質疑が行われ、問題はあるものの早期に LSS に対して手術を施行することでロコモを回避できる可能性があるためメリットの方が大きいとの回答があった。

本研究の結果は、LSS に対する手術時期を決定する際に極めて有用なものであり、今後本領域のさらなる発展に寄与するものと評価され、公聴会における質疑も適切であり参考論文と合わせて学位を授与するに相応しい研究と考える。

参 考 論 文

1. 大腿骨ステム周囲骨折に対する LCP cable system による治療経験
野々下博、山岡伸行、荒木正史
骨折 33 卷 4 号 Page864-866(2011.12)
2. 外反母趾における不安定性に関する検討
原田明久、荒木正史、野々下博、石田由佳子、宮田重樹
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53 卷 1 号 Page107-108(2010.01)
3. 腰椎椎間板ヘルニアに対する i-Quadrant system の使用経験
(16 mm 径 METRx quadrant system)
石崎嘉孝、荒木正史、中村昭文、中村宇一、原納明博、北田力
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 50 卷 6 号 Page1005-1006(2007.11)
4. METRx quadrant system を用いた頸椎前方固定術
荒木正史、石崎嘉孝
脊椎・脊髄神経手術手技 9 卷 1 号 Page144-146(2007.08)
5. 脊椎・脊髄神経手術手技 腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡を使用し
ない低侵襲手術の経験 METRx radiance illumination system 法(Love 法と
比較して)
石崎嘉孝、荒木正史
脊椎・脊髄神経手術手技 8 卷 1 号 Page109-111(2006.08)

6. 頸椎疾患に対する METRx quadrant system の使用経験
荒木正史、石崎嘉孝、高伸夫、李泰新、北田力
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 49 巻 3 号 Page439-440(2006.05)

7. 腰椎椎間板ヘルニアに対する METRx quadrant system の使用経験
—LOVE 法と比較して—
石崎嘉孝、荒木正史、高伸夫、李泰新、北田力
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 49 巻 1 号 Page163-164(2006.01)

8. 坐骨神経周囲造影・ブロックが有用であった梨状筋症候群の 2 例
荒木正史、石崎嘉孝、高伸夫、李泰新、北田力
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 48 巻 5 号 Page901-902(2005.09)

9. Sagittal Alignment of Cervical Flexion and Extension
Lateral Radiographic Analysis
Takeshima T、Omokawa S、Takaoka T、Araki M、Ueda Y、Takakura Y
Spine (Phila Pa 1976). 2002 Aug 1 ; 27(15) : E348-355

10. 当院における 90 歳以上の大腿骨頸部骨折に対する治療成績
荒木正史、山岡伸行、金沢あつ子、下村年胤、笠次良爾
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 42 巻 3 号 Page687-688(1999.05)

11. 四肢組織移植における医療用ヒルの有用性
荒木正史、川西弘一、光山孝慶、奥地一夫、籠島忠
整形・災害外科 41 巻 13 号 Page1589-1592(1998.12)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに運動器再建医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年9月8日

学位審査委員長

公衆衛生学

教授 今村 知明

学位審査委員

リハビリテーション医学

病院教授 城戸 顕

学位審査委員(指導教員)

運動器再建医学

講師 重松 英樹